Facebook「かまくらさん」にみる場所の特徴

THE FEATURES OF THE PLACES FOUND IN Facebook 'KAMAKURASAN'

山家京子*, 鄭 一 止**

Kyoko YAMAGA and Ilji CHEONG

The aim of this paper is to reveal the features of spatial resources through comprehension of the places and the cognition and the description as 'Kamakura's good mark' by 'Kamakurasan' facebook page. First, we classify the filmed pictures, and compare with tour guide book and landscape view. And, we consider the meaning of the process from posting to evaluation as the generation of the place according to the discussion over generation of landscape.

The results are as follows: 1) There exist stations and local parks as spatial resources with temples or shrines, and the nature. 2) We classified 'temporality' as the character of the cognition and the description of spatial resources according to the evaluation of the pictures which show the transit of time or season. 3) We revealed the process of 'Kamakurasan' by strength of the fraction of an instant with weak community of spatial accessibility as possibility of 'the generation of the place'.

Keywords: SNS, Photographs, Places, Landscape, Spatial Resources

SNS, 写真, 場所, 風景, 空間資源

1. はじめに

1-1. 背景と目的

近年、SNSの普及を背景に、SNSを用いて地域情報を発信する事例（地域SNS）が地域活性化やコミュニティ形成に活用されている。Facebookページ「1192人のかまくらさんによる情報発信交流ページ」¹⁾は、鎌倉に愛着をもつ人々が「かまくらさん」となり、鎌倉の魅力を発信する地域SNSである。「かまくらさん」は「鎌倉のよさ」を写真とテキストにより投稿する。そこには多くの景観写真が投稿されており、それらの写真は場所に関連づけられたものである。「かまくらさん」で多く注目された場所は、Facebookページ「かまくらさん」を通して見た「鎌倉のよさ」、すなわち空間資源と言ってよいだろう^{注1)}。地域の空間資源は一意ではなく、より多くの人々によって共感を得た場所が空間資源として評価されるからである^{注2)}。それでは、「かまくらさん」は「鎌倉のよさ」をどのような場所に見いだしたのだろうか。また、その場所はどのような要素に気づき・発見され、その「よさ」はどのように表現されたのか。これらの点について考察することにより、「かまくらさん」を通して見た空間資源の特質が導かれると考える。

一方、地域SNSは画像を含め取り扱いが容易であり、双方向性も確保されている。また、写真は場所と関連づけられる豊かな空間情報であり、多くの人が撮影した写真を短期間に収集できることも利点

である。こうした地域SNSの写真はまちづくりや景観計画への活用に向けて大いに可能性をもっている。しかし、地域SNSは普及して日が浅く、それら写真の特質や取り扱いの留意点など不明な点も多い。地域SNS写真の活用に向けて、その特質を整理し把握しておくことは意義深い。

本研究は、Facebook「かまくらさん」の投稿写真から、「鎌倉のよさ」として見いだされた場所の特徴を把握し「かまくらさん」を通して見た空間資源の特質を導くことを目的とする。また、「かまくらさん」における場所の体験の共有化についての検討も試みる。

まず、「かまくらさん」の投稿写真を整理・分類し、その実態を把握する。「鎌倉のよさ」として気づき・発見された場所の特徴について、投稿写真の撮影場所と被写体の検討により考察する。最初に、種類や所在地区など撮影場所の特徴について把握するとともに、観光ガイドブックなど他の媒体との相違について検討する。次に、写真の被写体を対象に種類、閲覧者の反応、撮影場所との関係、他の媒体との比較から考察する。さらに、「風景の生成」に関する論考を参考に、「かまくらさん」にみる場所の体験の共有化についての検討を試みる。Facebookは双方向性を特徴としており、投稿者が投稿するとともに、閲覧者がその投稿に対し評価やコメントを行うことができる。「かまくらさん」では、投稿者がある場所と出会い、「鎌倉のよさ」として構図を切り取り（つまり写真を撮り）、画像

* 神奈川大学工学部建築学科 教授・博士(工学)

** 神奈川大学工学部建築学科 特別助教・博士(工学)

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Dr. Eng.

Assistant Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Dr. Eng.

として投稿し、それを閲覧者が評価する。そして、そのよさは多くの評価を得て承認される。そのプロセスから、「風景の体験」「共同体の承認」を手がかりに、現象としての「かまくらさん」についての考察を試みる。

1-2. 語の整理

「視点場」と「撮影場所」、「被写体」と「点景的要素」、「被写体への眺め」と「場所」及び「場所の眺め」について整理し説明する(図1)。

一般的に景観写真の分析では、「視点場」と「被写体」から考察されることが多く、「視点場」は写真を撮る位置(地点)を示すものである。「視点場」の集合で、一定の領域としてまとまりをもったものを「撮影場所」と呼ぶ。

本稿では地域の空間資源との観点から、「撮影場所」として建築、屋外(人工、自然)、エリアを対象としている。これらの「撮影場所」で撮影される写真は「撮影場所」全体を対象とするとは限らない。その部分であったり、そこにあった動植物や仏像、人など小さな要素を被写体として表現される場合も多く見られる。ここでは主たる「被写体」として、「撮影場所」そのものの他、人、動植物、オブジェなどの小さな要素であっても「撮影場所」と関連づけられたものであれば対象とする。また、これら「場所」に比して小さなスケールをもつ「被写体」を「点景的要素」と呼ぶ。写真の主たる「被写体」に対してやや違和感のある表現だが、「撮影場所」を主たる考察対象とすること、及びそのスケールを表すためにこのような表現とする。

また、写真は「被写体への眺め」をある構図で切り取ったものと考えられる。「撮影場所」と被写体の位置する「場所」は一致する場合もあれば、遠景を捉えた写真、すなわち浜から海、空、富士山を臨む写真のように被写体が「撮影場所」の外部に存在する場合もある。このように被写体が外部に存在する場合にあっても、その眺めは「撮影場所」に帰すると考えられる。ここでは、「場所」をこれら「被写体への眺め」の総体から構成されるものとし、その「場所」に関わる眺めを「場所の眺め」と呼ぶ。

図1 語の整理

1-3. 既往研究

景観写真を用いた研究は、景観づくりの方向性を探ることや、景観及び都市空間特性、景観に対する認識を明らかにすることを目的として行われてきた。景観づくりの方向性を探る研究として、まず、姫野ら(2003)²⁾は観光パンフレットの写真を対象とし、より人間の直感に近い立体的な空間構図解析手法を用い、景観整備の方向性を探っている。日高ら(1998)³⁾は、観光パンフレットや絵葉書の写真を用い、被写体及び視点場について分析を行うことで、観光振興における景観の有効活用策を探っている。景観及び都市空間特性に関する研究として、著者ら(2006)⁴⁾はインターネット上の景観画像を

用い、都市のアクティビティと都市空間構造との関連について考察している。矢部ら(1994)⁵⁾は、一般雑誌に掲載されている景観写真を用いて都市空間の特徴把握を試みている。景観に対する認識に関する研究として、大石ら(2007)⁶⁾は望ましい・好ましくないと感じる景観の写真及び撮影理由のコメントを用い、地域景観に対する地域住民の多様な評価プロセスを示している。藤澤(2013)⁷⁾は、無作為に撮影した写真と撮影理由、及び特定写真に関する選択式調査をもとに、来訪者と住民の地域景観に対する認識の相違について示している。

一方、地域SNSに関する研究として、和崎(2009)⁸⁾や田中(2012)⁹⁾は地域SNSに対する評価やユーザーの心理的な変化に着目し、谷口ら(2011)¹⁰⁾はコミュニティ形成との関わりについて考察している。また、SNSの写真活用に関する研究として、趙ら(2012)¹¹⁾や奥津ら¹²⁾はFlickrやPanoramioなど写真共有サイトに投稿された写真を活用して地域特性の抽出を図っている。

本研究は、景観計画やまちづくりに資することを目的にする点において景観写真を用いた研究と共通する。また、SNSの写真活用に関する研究は、SNSの大量の写真情報と実際の都市空間との相違についても論じており、問題意識で重なる部分も多い。しかし、地域SNSで注目された場所を空間資源として位置づけている点、地域SNSの写真の特徴を明らかにしようとする点において異なっている。

2. 研究対象

2-1. Facebook「かまくらさん」

Facebook「かまくらさん」は正式名称「1192人のかまくらさんによる情報発信交流ページ」であり、鎌倉市と民間研究所^{注3)}が管理運営を行っている(図2)。「かまくらさん」はこのページの通称であるとともに、鎌倉市在住及び在勤を条件として公募により選ばれる登録者を指す^{注4)}。鎌倉市は当時2013年の世界遺産登録を目指しており、地域愛(地元愛)の可視化を目的に^{注5)}、2013年1月28日に開設した。「かまくらさん」はFacebookページを利用し、「かまくらさん」専用のアプリから投稿される。鎌倉の情報を写真とテキストにより投稿するが、その内容は「鎌倉の前向きな情報」であることだけを条件に「かまくらさん」に委ねられている^{注5)}。

登録者「かまくらさん」は2013年9月時点で381名、うち投稿者298名である。登録者の年齢構成は40代が一番多く36.2%、次いで30代が28.6%、50代が18.37%、3,40代で5割を超える。性別は男性が65.1%、女性34.88%で男性が多い。一般的なFacebookユーザーよりやや高齢で、男性に偏っている^{注6)}。

2-2. 比較対象としての観光ガイドブック及び景観百選

Facebook「かまくらさん」により投稿された場所及び写真の特質を

図2 Facebook「かまくらさん」

明らかにするために、観光ガイドブック及び「かまくら景観百選」¹³⁾（以降、景観百選と表記）の2つの媒体との比較検討を行う。

観光ガイドブックに掲載される写真は観光景で一般的に認知される代表景と考えられる。ここでは一般的に写真が多く掲載されている観光ガイドブック¹⁴⁾を採用する。一方、景観百選は「景観づくりの意識を高めること」「地域の景観資源を明らかにすること」を目的に、1998年に鎌倉市により実施されたものである。市内外から357件の応募があり、市民投票やフリートークなどで得られた意見も参考に、景観デザイン委員会が「鎌倉らしい、代表的な景観」「鎌倉の景観を構成する重要な要素」として86件を選定した。景観百選は、最終的に専門委員会が決定しているプロセスから、専門的視点に基づき、生活景も含む代表景を対象としていると考えられる。いずれも個人的体験に基づくものではなく、客観的視点を伴った代表景といえる。

3. 投稿の概要

対象とする投稿は、鎌倉市内で視点場、すなわち撮影場所が特定できるものとする。主たる被写体が人、物品など比較的小さな要素で場所との関わりの薄いもの、特定の店舗との関連が強いものは除外する。対象期間は、投稿数が安定してきた2013年2月から1年間である。「かまくらさん」の投稿は写真とテキストから構成され、ここでは写真について整理・分類を行う。撮影場所と被写体の特定にはテキストも援用する。基本情報（①投稿日、②写真）、閲覧者の反応（③「いいね!」数、④シェア件数、⑤コメント件数）、撮影場所（⑥視点場、⑦地区）、被写体（⑧種類、⑨内容）、⑩テキスト、⑪投稿者を整理した。⑦撮影場所の地区は鎌倉市の地区分類に従い、鎌倉、腰越、大船、深沢、玉縄の5地区とする。⑧被写体の種類（中項目7、小項目18）は以下のように分類する。

投稿写真を整理・分類した結果、対象期間において撮影場所の特定できた写真付き投稿数は合計1,668であった^{注7)}。

表1 被写体の種類

建築・工作物	建築（神社仏閣）、建築（その他）、工作物・ストリートファニチャー
屋外	参道・庭園、街路・切通、（公園など）屋外パブリックスペース
自然	海・浜辺、山、空、その他自然
点景的要素（自然）	花・樹木、生物
点景的要素（人工）	仏像・オブジェ、看板・案内板、乗り物、しつらえ
人・行事	
その他	

左より中項目と対応する小項目を示す。小項目の具体的内容は以下のとおり。
工作物：鳥居、塔、灯籠、鐘、井戸、マンホール、踏切、信号、線路、仮設建築、テント、海の家
街路・切通：通り、街路、トンネル、切通
仏像・オブジェ：仏像、地藏、石碑、オブジェ、絵図、アート
しつらえ：イルミネーション、ちょうちん、七夕飾り、鯉のぼり、吊るしびな、ペーパークラフト
その他：農・漁の風景、景勝、跡地、遠景、工事現場、物品

4. 撮影場所の特徴

4-1. 投稿数上位の撮影場所

投稿数の多かった撮影場所について概観する。

【撮影場所の分類】

投稿数上位82件（投稿数4以上）を対象に、撮影場所をそのスケールと内容により、表2のとおり分類する。神社仏閣が4割強、神社仏閣とその他施設からなる建築で56%、屋外で38%となる。投稿数10（上位35件）以下で施設、街路・切通、その他自然に分類される撮影場所が見られ、反対に投稿数7（上位50件）までは神社仏閣の占める割合が高い。

【投稿数の多い撮影場所】

投稿数が非常に多いのが、円覚寺、鶴岡八幡宮、西鎌倉、七里ヶ浜である。次いで、由比ヶ浜、稲村ヶ崎、東慶寺、鎌倉駅、長谷寺、若宮大路（段葛と大鳥居）、合わせて上位10件となる。円覚寺、鶴岡八幡宮、東慶寺、長谷寺、若宮大路（段葛と大鳥居）は神社仏閣、七里ヶ浜、由比ヶ浜、稲村ヶ崎は海で、いずれも有名な観光地である。その中であって、西鎌倉と鎌倉駅が異質だが、西鎌倉は高台の住宅地で、富士山、海、街並が臨めるエリアである。

投稿数10以上の撮影場所が35件あり（表3）、その35件を先の分類に従ってみると、神社仏閣21件、駅3件、公園・パブリックスペース4件、海・浜辺5件、エリア2件となる。駅3件は鎌倉駅、北鎌倉駅、大船駅、公園・パブリックスペース4件は鎌倉海浜公園、鎌倉中央公園、大船植物園、七里ヶ浜駐車場であり、観光地ではない撮影場所も見られる。主な投稿数上位の撮影場所の写真を図3に示す。

【撮影場所と地区】

投稿数上位の撮影場所（投稿数4以上の82件）が位置する地区を見る

表2 撮影場所の分類

建築（46件）	神社仏閣（35件）	
	その他施設（11件）	駅（4件） 施設（7件）
屋外（39件）	屋外（人工）（11件）	公園・パブリックスペース（9件） 街路・切通（7件）
	屋外（自然）（15件）	海、浜辺（8件） その他自然（7件）
エリア（5件）		

（ ）は該当する撮影場所の件数を示す

表3 投稿数上位の撮影場所

順位	投稿数	撮影場所	分類	順位	投稿数	撮影場所	分類
1	112	円覚寺	神社 ○●	17	20	龍寶寺	神社 ●
2	94	鶴岡八幡宮	神社 ○●	17	20	鎌倉海浜公園	屋外 ○
3	86	西鎌倉	エリア	21	19	妙本寺	神社 ○
4	81	七里ヶ浜	海 ●	21	19	北鎌倉駅	駅 ●
5	59	由比ヶ浜	海 ●	23	18	大巧寺	神社 ○
6	52	稲村ヶ崎	海 ●	24	17	光明寺	神社 ○●
7	46	東慶寺	神社 ○●	24	17	鎌倉中央公園	屋外 ●
8	35	鎌倉駅	駅	26	15	大船観音寺	神社
9	32	長谷寺	神社 ○	26	15	海蔵寺	神社 ○
10	30	若宮大路	神社 ○●	28	14	成就院	神社 ○●
11	27	建長寺	神社 ○●	29	13	宝戒寺	神社 ○
12	24	鎌倉宮	神社 ●	29	13	県立万寿センター	屋外
13	24	高德院	神社 ○●	31	11	七里ヶ浜海岸駐車場	屋外
14	22	荏柄天神	神社 ○	31	11	北鎌倉	エリア
14	22	明月院	神社 ○	33	10	実相寺	神社
14	22	材木座	海 ●	33	10	大船駅	駅
17	20	浄智寺	神社 ○●	33	10	鎌倉高校前	海
17	20	本覚寺	神社 ○				

○…観光ガイドブック掲載 ●…景観百選掲載

図3 投稿数上位の撮影場所の写真

と、鎌倉地区が48件（58.54%）で半数以上を占める。鎌倉地区には、鶴岡八幡宮をはじめ数多くの歴史的遺産があり、古都鎌倉のイメージを形成するとともに、由比ヶ浜の海や小町通など商店街も位置する。次いで、北鎌倉周辺に多くの神社仏閣が存在する大船地区、七里ヶ浜や腰越漁港など相模湾に面する腰越地区である。

観光スポットがほとんど存在しない深沢地区、玉縄地区はいずれも4件と少ない。これらの地区の撮影場所には、龍寶寺、大船観音寺の神社仏閣の他、鎌倉中央公園、神奈川県立フラワーセンター大船植物園、夫婦池公園、谷戸池、野村総研跡地など公園・パブリックスペースが並ぶ。これらは生活の場として「鎌倉のよさ」をもつと判断されたと見える。

4-2. 観光ガイドブック及び景観百選との比較

「かまくらさん」82件（投稿数4以上）、観光ガイドブック48件、景観百選62件の場所を比較してみると^{注8)}、15件一致しており、うち14件が神社仏閣（円覚寺、鶴岡八幡宮、東慶寺、若宮大路、建長寺、高德院、浄智寺、光明寺、成就院、瑞泉寺、安養院、御霊神社、浄妙寺、小動神社）である^{注9)}。もうひとつは、鶴岡八幡宮構内にある神奈川県立近代美術館であった。

観光ガイドブック、景観百選の両方に掲載されている、あるいは観光ガイドブックでの扱いが大きい^{注10)}にもかかわらず「かまくらさん」上位82件に相当しない撮影場所が数件存在する。和賀江嶋（材木座）、杉本寺、極楽寺、佐助稲荷神社、安国論寺が相当するが、そこに大きな理由があると考えにくい。ただ、その中にあって銭洗弁天宇賀福神社については有名な観光地にもかかわらず、「かまくらさん」の投稿数が2と少ないのは明確な差といえる。写真撮影の引きが小さく、花・樹木など点景的要素を加えにくいことが要因と推測される。

反対に、「かまくらさん」のみ相当するのが30件あり、そのうち投稿数10以上であったのが神社仏閣（大船観音寺、実相寺）、駅（鎌倉駅、大船駅）、公園・パブリックスペース（神奈川県立フラワーセンター大船植物園、七里ヶ浜駐車場）、海・浜辺（鎌倉高校前）、エリア（西鎌倉、北鎌倉）の9件であった。

4-3. 「かまくらさん」の撮影場所の特徴

最初に、「かまくらさん」の撮影場所を考察するにあたり、今回の研究方法による選定の特徴について補足する。撮影場所は写真が撮られた場所を指し、その場所は写真とテキストから特定している。テキストには日常的な場所の呼称が使われており、明らかに同一の場所を指す場合はより多くの人が使っている呼称に統一したが、できる限り投稿者の使用する場所の名前を採用した。場所を特定の建築や通りの名称とせず「エリア」（例えば北鎌倉）と分類するのもこれによる。また、投稿者が偏る撮影場所も存在する^{注11)}。しかし、いずれも一定数以上の閲覧者の共感を得ていること、偏りがあるのもSNSの特徴であることなどをふまえ、特に操作は行わずすべてを対象とし、考察の中で検討を加えることとする。

以下、「かまくらさん」の撮影場所の特徴について述べる。

【寺社と自然】

神社仏閣：神社仏閣が「鎌倉のよさ」であることに異論はないだろう。「かまくらさん」で特に投稿数の多い10件のうち5件、3つの媒体で一致していた14件も神社仏閣である。一方、銭洗弁天宇賀福神社は有名な観光地だが、「かまくらさん」での注目は低い。また、神社仏閣ではないが、同じく3つの媒体で一致して挙げられ、鶴岡八幡宮の境

内に位置する神奈川県立近代美術館も「鎌倉のよさ」をもつ場所であろう。

自然と眺望：神社仏閣同様、海をはじめとする豊かな自然とその眺めも「鎌倉のよさ」である。七里ヶ浜、由比ヶ浜、稲村ヶ崎は景観百選とも共通する海・浜辺である。西鎌倉は一人の投稿者によるものであるが、閲覧者の反応も高く、富士山への眺めはやはり多くの人が感じる「鎌倉のよさ」と考えてよいだろう。

【「かまくらさん」ならではの撮影場所】

駅：投稿数上位の撮影場所として鎌倉駅、北鎌倉駅、大船駅が挙げられた。北鎌倉駅は景観百選に選ばれ、極楽寺駅などとともにたたずまいに趣がある駅である。しかし、鎌倉駅と大船駅については、特に駅そのものに建築的的魅力がある訳ではない。投稿内容を見ても通勤や移動の際のちょっとした発見や気づきが多く、住民の移動の結節点であることが見て取れる。

公園・パブリックスペース：投稿数上位の公園・パブリックスペースとして、鎌倉海浜公園、鎌倉中央公園、大船植物園、七里ヶ浜駐車場が挙げられた。七里ヶ浜駐車場はイベントも行われ、その様子が投稿されている。また、観光スポットが立地しない深沢地区、玉縄地区の撮影場所には、近隣の公園・パブリックスペースが挙げられている。これらは観光地ではないが、住民が日常的に過ごす「鎌倉のよさ」をもつ場所といえるだろう。

大船観音寺：大船観音寺の投稿の多くは、大船駅から臨む大きな観音像の写真である。景観百選に入っておらず、学術的価値の高い「専門家好み」ではないが、地元に愛されている存在といえる。

5. 被写体の特徴

5-1. 被写体の概要

【被写体別投稿数】

全投稿数1668の投稿を「3. 投稿写真の概要」で示した被写体の種類（中項目7、小項目18）に従って整理する（表4）。

小項目で見ると、10%を超えたのは花・樹木のみで481件（28.84%）だった。中項目を見ると、点景的要素（自然）が3割強、自然、建築物・工作物が2割前後、点景的要素（人工）、屋外が約1割である。

点景的要素（自然）は花・樹木、生物、点景的要素（人工）は仏像・オブジェ、看板・案内板、乗り物、しつらえからなり、それら点

表4 被写体別投稿数

中項目	小項目	投稿数（%）	小計（%）
建築・工作物	建築(神社仏閣)	112 (6.71)	302 (18.11)
	建築(その他)	129 (7.73)	
	工作物・ストリートファニチャー	61 (3.66)	
屋外	参道・庭園	67 (4.02)	124 (7.43)
	街路・切り通し	47 (2.82)	
	屋外パブリックスペース	10 (0.60)	
自然	海・浜辺	102 (6.12)	346 (20.74)
	山	70 (4.20)	
	空	138 (8.27)	
	その他自然	36 (2.16)	
点景(自然)	花・樹木	481 (28.84)	520 (31.18)
	生物	39 (2.34)	
点景(人工物)	仏像・オブジェ	119 (7.13)	212 (12.71)
	看板・案内板	47 (2.82)	
	乗り物	17 (1.02)	
	しつらえ	29 (1.74)	
人・行事	-	110 (6.59)	110 (6.59)
その他	-	54 (3.24)	54 (3.24)
合計		1668(100)	1668(100)

景的要素（自然・人工）を合わせると4割を超える。人・行事を含めると5割を超えることから、半数の被写体は撮影場所そのものというより、そこに添えられるものといえる。

また、自然に関する被写体は自然、点景的要素（自然）で5割を超える。さらに、恒常的でない(移ろいゆく)被写体は自然、点景的要素（自然）、乗り物、しつらえ、人・イベントで6割を超え、それらは季節の移り変わりや一日の時間の流れ、イベントなど変化する要素である。

【被写体別件数・月別】

被写体の種類を月別に見ると、点景的要素（自然）のうち花・樹木は3月（桜）6月（あじさい）11月（紅葉）が非常に多い。自然は秋から冬にかけて多く、特に11,12月には空が多くなる。人・行事は8月に多く、海のイベントや花火が被写体となっている。建築・工作物、屋外、点景（人工物）には、1年を通じてあまり変化が見られない。

5-2. 閲覧者の反応上位の被写体

閲覧者の反応、すなわち「いいね！」数上位の写真の被写体について考察する。

反応数が圧倒的に多かったは七里ヶ浜の夜光虫の写真である。次いで飯島トンネルの逗子から鎌倉に抜ける風景、七里ヶ浜のサンタの格好をしたサーファー、稲村クラシック（サーフィンの大会）、ライトアップされた鎌倉大仏と続く。さらに花火の写真も多く、反応数の多い写真は一時性の強いものが多いといえる。紅葉、桜、ホテル、夕日、虹など、季節や一日の移り変わりを感じさせてくれる被写体が多く、また、空、海、富士山を臨む海の遠景が多い。図4に代表的な写真を示す。

反応数上位40件（「いいね！」数200以上）の内訳を見ると、撮影場所では稲村ヶ崎7、七里ヶ浜6を含む海・浜辺18、神社仏閣13、施設1、屋外4、エリア4である。撮影場所上位35件（投稿数10以上）に入っていない撮影場所は、飯島トンネル2件、谷戸池（アヒルが水草をかき分けて泳ぐ）、力持家（赤いポストと紫陽花）、腰越海岸（浮び上がる江ノ島）、長寿寺（紅葉）であった。被写体では自然が多く18件45%、人・行事は7件（17.5%）でいずれも1,688件を対象とした比率の倍以上である。点景的要素（自然）は12件30%、建築・工作物、屋外はほとんど見られない。

5-3. 撮影場所と被写体

撮影場所と被写体の関係について考察する。投稿数10以上の撮影場

<p>七里ヶ浜 0703/534件 幻想的な夜光虫の光。</p>	<p>飯島トンネル 0710/396件 逗子から鎌倉に抜けるトンネル。</p>	<p>七里ヶ浜 1123/389件 サンタのコスチュームを着たサーファー。</p>	<p>稲村ヶ崎 0926/359件 稲村クラシック2013。</p>
<p>高徳院 1109/338件 イベントで特別にライトアップされた大仏。</p>	<p>円覚寺 1126/321件 紅葉。</p>	<p>北鎌倉 0531/293件 ホテル。</p>	<p>由比ヶ浜海岸 0723/289件 花火。</p>
<p>稲村ヶ崎 0909/259件 夕景。</p>	<p>建長寺 0326/224件 桜。</p>	<p>力持屋横丸ポスト 0609/221件 紫陽花。人気のショット。</p>	<p>西鎌倉 1119/216件 一人の投稿者による定点観測。自宅からの眺め。</p>

各項目2行目の数字「0703/534件」は投稿日が7月3日、いいね数が！534件を示す。

図4 読者の反応上位の写真

所35件について、被写体の種類（中項目）の割合を対象としたクラスター分析（ユークリッド距離、ウォード法）を行い、4つに類型化した。その結果を図5に示す。

I. 花・樹木型：点景的要素（自然）のうち、花・樹木が主たる被写体となっているグループである。13件の撮影場所が属し、神社仏閣がほとんどで11件、公園・パブリックスペースが2件である。大船植物園は13の投稿すべてが植物の写真で、他の撮影場所も5割強以上が花・樹木である。神社仏閣と花の組み合わせの写真も多い。観光ガイドブックのような典型的な構図ではなく、寺の本堂に花・樹木が添えられている写真である。花・樹木は投稿の3割近くを占める人気の被写体であり、専ら花・樹木の写真を投稿する者も見られる。

II. 自然・眺望型：海・浜辺、空、富士山への眺めを主たる被写体とするグループで、海・浜辺が4件、公園・パブリックスペース、エリアが各1件である。

III. オブジェ型：点景的要素（人工）を主たる被写体とするグループで、5件の撮影場所が属する。3件は神社仏閣で、大船観音（大船観音寺）、鎌倉大仏（高徳院）、今日の言葉（実相寺）が主たる被写体である。また、2件は駅（大船駅、鎌倉駅）での置物と乗り物が被写体となっている。

IV. 混合型：多くの被写体から構成されるグループで、11件の撮影場所が属する。神社仏閣は7件で、いずれも投稿数は多い。あじさいと海への眺望を特徴とする成就院は、海・浜辺、花・樹木がそれぞれ4割ずつである。浄智寺は参道・庭園の写真が比較的多く、鎌倉宮、鶴岡八幡宮、建長寺は人・行事が2,3割あるのが特徴である。光明寺と円覚寺は同様の傾向を示し、建築の写真が比較的多い。他の海・浜辺が「II. 自然・眺望型」でほとんど海の写真であるのに対し、由比ヶ浜は鳥、マリンスポーツ、鯉のぼり、花火などの写真もあり、被写体は多様である。北鎌倉駅は、大船駅、鎌倉駅と比較して屋外、点景的要素（自然）が多く見られ、駅からの眺めを被写体としている様子が伺える。

5-4. 観光ガイドブック及び景観百選との比較

撮影場所上位82件（投稿数4以上）で3つの媒体で共通している撮影場所が15件であった。観光ガイドブックには掲載写真の撮影位置がおすすめ撮影ポイントとして示されており、それらは15件のうち11件に該当する。表3に観光ガイドブック（表中○で表示）、景観百選（表中●で表示）の掲載を示す。

図6に建長寺を例に、投稿写真一覧とガイドブック及び景観百選の写真を示す。建長寺の例に見るように、「かまくらさん」では総じて典型的構図の写真の比率は低い。一方、典型的構図の占める割合が高いのは、高徳院（大仏）、安養院（つつじ）、成就院（相模湾への眺め）、神奈川県近代美術館（源平池）である。

5-5. 「かまくらさん」の被写体の特徴

「かまくらさん」の被写体の特徴を以下にまとめる。

一時性：一時性、現在性を重んじる被写体が多く選ばれる。すなわち、夕日や空など一日の時間の流れを示すもの、紅葉や桜、ホテルのように季節の移り変わりを表現するもの、また稲村クラシックや花火などのイベントである。閲覧者の反応も一時性を求めており、今しか見られない瞬間を美しく切り取った写真の評価が高い。

一時性を付加する：このような移り変わる事物のみを対象とした写真の他、神社仏閣と花の組み合わせの写真も多い。観光ガイドブックのおすすめ撮影ポイントのようにその対象を典型的な構図で伝えるの

図5 撮影場所と被写体

図6 写真一覧 (建長寺)

ではなく、寺の本堂に花・樹木が添えられている。建長寺+桜、光則寺+海ドウ、光明寺+桜、本覚寺+サルスベリが代表的である。その他、添えられる被写体の変化で季節の移り変わりや現在性を表現するものもある。例えば、鎌倉大仏+鳥、桜、鎌倉宮の鳥居+河津桜、蓮、紅葉などである。

被写体の多様性：鶴岡八幡宮や円覚寺など、投稿数の多い、あるいは規模の大きい撮影場所の被写体は多様な傾向がある。海・浜辺で同じように投稿数が多くても、七里ヶ浜に比べて由比ヶ浜は多様である。イベントや海水浴客の多さなど、浜の性格の違いを反映しているといえる。

駅：駅が「かまくらさん」ならではの撮影場所であることは既に述べた。その被写体は駅舎、駅構内、駅からの眺め、乗り物などである。特殊な事例では、江の電・鎌倉駅には車両止めの「無事カエル君」というオブジェがあり、季節ごとに違うしつらえがなされており、これも寺にとっての花・樹木のような役割を果たしている。これらは撮影のために訪れたものではなく、電車の待ち時間に発見されており、生活に沿ったものといえる。

典型的構図：観光ガイドブックでおすすめ撮影ポイントが示されるように、観光スポットには典型的な構図が存在する。例えば、安養院（つつじ）、稲村ヶ崎（富士山、江ノ島、海）、御霊神社前の踏切、成就院（相模湾、あじさい）、長谷寺（あじさい、紅葉、花菖蒲）、報国寺（竹）、明月院（あじさい）などである。「かまくらさん」の写真にもこのような典型的構図は存在するが、相対的に少ない。また、初投稿に際して「鎌倉と言えば大仏」という理由で、このような典型的構図からスタートさせる事例も数件確認できた。

6. 「かまくらさん」における場所の体験の共有化

「かまくらさん」にみる場所の体験の共有化について、「風景の生成」に関する論考^{注13)}を参考に検討を試みる。

「風景の生成」とは、風景を「客観的物理的対象としての環境（存在）」としてではなく、「人間と環境との間に何らかの関係性が生じること（現象）」としてとらえる立場に基づく言説である^{注14)}。これら「風景の生成」を扱う論考は基本的に「地域のまとまりをもった眺め」を対象としている。今回対象とする「場所の眺め」にはそれより小さなスケールのものも含まれる。しかし、「主体・環境」への視座をもち、風景が文化的・歴史的な文脈を組み込んだ環境を扱う点において、「場所の眺め」に共通するものは多い。

木岡（2007）¹⁵⁾は、風景の認識を「基本風景」「原風景」「表現的風景」という3つの層による構成として示した。「基本風景」は個人の体験に基づくものであり、それらが共同体によって繰り返し語られることにより「原風景」となり、「表現的風景」は絵画などによって具現化されるものである。また、中川（2008）¹⁶⁾によると、風景は共同体と深く関連づけられたものであり、「一般的に風景という概念は、この既知化され、美としての評価が広く共有・定着したものを指す場合が多い」とし、「元来主観的な価値判断が、何らかの形で共同化されることにより成立する」と説明している。

ここで「かまくらさん」の投稿から承認に至るプロセスを、木岡の3つの層のうち「基本風景」「原風景」との対応により考察する。

まず、「基本風景」は個人の「風景の体験」であるが、「かまくらさん」において投稿者がその場所に出会うことは、きっかけによる個

人の気づきであり、個人の体験に基づく「基本風景」体験といえる。しかし、その体験は、加藤（2000）¹⁷⁾が定義するような、「風景とは、既知のものが未知のものとして見えはじめたときに生じるもの」とするほどの強度は必ずしも持ち合わせていない。「かまくらさん」における場所との出会いにはさまざまなきっかけが存在する。投稿写真に添えられたテキストによると、投稿者がその場所に赴くきっかけは、「取材」[0626（該当するテキストの投稿日を示す）]と表現されるように写真の撮影のために出向いたものから、「通りがかり」[0630]に偶然発見するものまで、その目的の強度は異なる。被写体についても、見慣れた対象を「季節の気づき」[0123]として伝えるため、あるいは「発見したもの」[0609]として選択されている。

5章で述べた「かまくらさん」の写真の「一時性」とともに、「かまくらさん」の投稿・承認のプロセスは「現在性」を有する。例えば、投稿テキストには「かまくらさんの投稿を見て」[0130]「同じ時間に同じ場所で同じ風景を見ていたかまくらさんがいた」[0909]などの記述が見られる。この「現在性」は個人（投稿者）一個人（閲覧者）に共有され、継続性には欠くものの瞬時の強い結び付きを生じさせるものであり、個人の風景体験の弱さを補っているともいえる。

次に、閲覧者の反応によって承認されるプロセスが「共同体の承認」、つまり中川の言う「共同性の確保」に相当し、そのプロセスを経て「原風景」と位置づけることの可否について検討する。閲覧者の集合は地縁・血縁に基づく強い紐帯をもった共同体とは言えない。また、繰り返し語られ、時間をかけて醸成されたとも言いがたい。しかし、一方でSNSに基づく共同体の存在は既に多く指摘されており、閲覧者の集合は全くばらばらの個人の集合とも言えない。「かまくらさん」の閲覧者（いいね！を押した人）は鎌倉市民をはじめ鎌倉に関心をもつ人たちであり^{注12)}、ある空間的近接性を保ちながら弱い関係をもつ共同体によって承認されているといえる。

すなわち、「かまくらさん」において、空間的近接性をもつ弱い共同体に、瞬時の強度をもつ現象が生じており、それは限定的ながら「基本的風景」「原風景」に相当するものが生成されていると考えられる。「風景」を「場所の眺め」に置き換え、さらに「場所の体験」が専ら「眺めによる体験」により構成されるとするならば、「かまくらさん」で生じている場所の体験の共有化は「場所の生成」に相当すると結論づけられる。

7. まとめ

本研究では、Facebook「かまくらさん」の投稿写真から、「鎌倉のよさ」として見いだされた場所の様態を把握するとともに、「かまくらさん」における場所を巡る現象についての検討を試みた。明らかにしたことを以下に述べる。

1) 撮影場所の特徴として、まず神社仏閣と海・山など自然的場所が挙げられ、これらは観光地や景観百選とも共通するものである。「かまくらさん」ならではの撮影場所として、駅と地域の公園の存在が示され、これらは日常的な生活の中で捉えられるものである。特に、駅は移動の結節点としての重要性はよく論じられるが、電車の待ち時間に「眺め」や「発見」が得られることから、生活体験において大きな存在をもつ施設であることが見て取れる。

2) 被写体の特徴として、被写体の多様性に撮影場所の特徴が表れることや、点景的構図で捉えられることが少ないことなどを述べると

ともに、一時性について指摘した。一時性は、一日の時間や季節の移り変りを示す被写体が多く選ばれ、瞬間を美しく切り取った画像の評価が高いことから説明される。また、一時性は主たる被写体だけでなく、神社仏閣のように不動の対象に添えられる形で表現される。

3) 最後に「かまくらさん」にみる場所の体験の共有化について考察し、「かまくらさん」の投稿から承認に至るプロセスについての検討から、空間的近接性をもつ弱い共同体に、瞬時の強度をもつ現象が生じており、それは限定的ながら「場所の生成」に相当すると結論づけた。

本稿では、「かまくらさん」で生成された場所を空間資源として位置づけた。すなわち、空間資源は集合的な体験の中に位置づけられる「生きられた場所」として現れ、それは地域SNSの特質に基づくものである。まちづくりや都市計画では客観性が重要であり、空間資源も一般的には客観的で恒常的な存在として捉えられる。しかしながら、これからのコミュニティ形成やまちづくりにおいて、空間資源として「生きられた場所」を位置づけること、すなわち生の視点の導入を図ることも意義深いと考えられる。

謝辞

鎌倉市役所よりご協力いただきました。ここにお礼申し上げます。

参考文献

- 1) <https://www.facebook.com/kamakurasan1192>(参照2013. 8. 17-2014. 7. 23)
- 2) 姫野由香, 佐藤誠治, 小林祐司, 金キョン希: 観光資源が写された景観画像の構図解析手法, 日本建築学会計画系論文集, No. 569, pp. 139-145, 2003. 7.
- 3) 日高圭一郎, 伊藤解子, 鳩心治: 観光画像情報からみた観光資源に関する一考察-北九州市を事例として-, 日本建築学会計画系論文集, No. 512, pp. 213-220, 1998. 10.
- 4) 山家京子, 秋永絵理: インターネット画像に現れる商業集積地のアクティビティに関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 590, pp. 125-130, 2005. 4.
- 5) 矢部恒彦, 北原理雄: 若年女性対象の量販一般雑誌に掲載された都市の風景に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 463, pp. 139-148, 1994. 9.
- 6) 大石洋之, 村川三郎, 西名大作: 被験者の撮影写真における選好景観特性の分析, 日本建築学会環境系論文集, No. 611, pp. 75-82, 2007. 1.
- 7) 藤澤奈緒: 地域イメージの生成に関わる風景体験の多元性に関する研究, 早稲田大学修士論文概要集, 2013. 2.
- 8) 和崎宏: 地域SNSによる地域情報化に関する研究, 兵庫県立大学大学博士論文, 2010. 2.
- 9) 田中秀幸: 第4章 国・自治体による地域 SNS 一施策とその効果の検証一, 杉本星子編: 情報化時代のローカル・コミュニティ —ICT を活用した地域ネットワークの構築 一, 国立民族学博物館調査報告, No. 106, pp. 83-104, 2012. 8.
- 10) 谷口枝里, 藤田忍: 地域SNSがまちづくりに及ぼす効果, 日本建築学会近畿支部研究報告集計画系, No. 51, pp. 445-448, 2011. 5.
- 11) 趙サンギョ, 城ウニョン: 場所中心の空間計画のためのインターネット写真情報の活用案(韓国), AURI, 2012. 12.
- 12) 奥津弘, 遠田敦, 渡辺仁史, 菊地弘祐: ソーシャルメディアを介した行動モニタリングに関する研究1. 写真共有コミュニティサイトに投稿された写真にみる地域特性の抽出, 日本建築学会, 関東支部研究報告集, F, pp. 341-344, 2010. 3.
- 13) 鎌倉市景観課: かまくら景観百選, 2000.
- 14) るるぶ鎌倉' 13~' 14 るるぶ情報版関東14 通巻4390号, JTBパブリッシング, 2013. 3.
- 15) 木岡伸夫: 風景の論理, 世界思想社, 2007. 7.
- 16) 中川理: 風景学, 共立出版, 2008. 7.
- 17) 加藤典洋: 日本風景論, 講談社, 2000. 11.
- 18) 吉永健人, 山家京子, 鄭一止: Facebook「かまくらさん」に投稿された画像の特徴-地域SNSによる地域資源抽出の試み その1-, 日本建築学会大会

学術講演梗概集, F-1, pp. 1199-1200, 2014. 9.

- 19) 鄭一止, 山家京子: 地域資源の抽出プロセスに関する研究 その1. ホームページを対象とした事例調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp. 1201-1202, 2014. 9.
- 20) 楽楽 鎌倉・江の島, JTBパブリッシング, 2014. 4.
- 21) たびまる鎌倉, 昭文社, 2014. 1.
- 22) 吉村晶子: 風景の生成と身体化に関する類型論的研究, ランドスケープ研究 (オンライン論文集) Vol. 3, pp. 51-60, 2011. 1.
- 23) 吉村晶子: 原風景の生成に関する研究, ランドスケープ研究67 (5), pp. 731-736, 2004. 3.

注

- 注1) 筆者らは既報¹⁸⁾において、一部の投稿写真の整理・分類と地域資源としての活用可能性について報告した。
- 注2) 筆者らが行った空間資源の抽出プロセスに関する調査によると¹⁹⁾、その多くはワークショップや公募によるものである。ワークショップ参加者や公募参加者と比較して、「かまくらさん」に関わった住民が少ないとは言えないため、十分空間資源と言ってよい。
- 注3) (株) リクルートライフスタイル ジャーナリサーチセンター
- 注4) 「かまくらさん」は1192 (いい国) にあやかり、1192人の「かまくらさん」の登録を目指している。
- 注5) 1192人のかまくらさんによる情報発信交流ページ利用規約¹⁾によると、『「かまくらさん」がみずから旬の鎌倉情報を発信し、その情報を多くの方が共有することで、鎌倉を思う心をつなぐとともに、多くの鎌倉ファンによる新たな交流機会の創出』を目的としている。『「かまくらさん」は、その目的に照らし、「鎌倉についての前向きな情報」の投稿が託されて』おり、『身近な地域の情報や、投稿者本人が四季折々に感じていることなど、鎌倉のさまざまな魅力について』の投稿が促されている。
- 注6) 「Facebook利用者動態調査 Japan 2013」
<http://blog.thingslabo.com/archives/000383.html#more>
- 注7) 投稿の月別数は、2013年2月：216、3月：299、4月：206、5月：158、6月：127、7月：79、8月：113、9月：96、10月：83、11月：101、12月：105、2014年1月：85であった。最多は3月の299、最少は7月の79、平均は139である。
- 注8) 比較対象とする「かまくら景観百選」は86件、そのうち「市内各所」など場所が特定できない景観・要素24件をはずすと62件となる。観光ガイドブックでは写真解説のついた観光スポットのうち、商業施設を除いた48件を比較対象とする。これらの件数を踏まえ、投稿数4以上の撮影場所82件（5以上で70件、6以上で59件）を対象としている。投稿数4～6の撮影場所に関覧者の反応がよかったもの、観光地とは異なる特性をもったものがあるため、やや多めに選んだ。
- 注9) 観光ガイドブック¹⁴⁾が「古都鎌倉」を特集しているにも起因する。他の2冊のガイドブック²⁰⁾²¹⁾も参照したが、ここで取り上げた撮影場所については、ガイドブック²⁰⁾は本稿で使用したガイドブックとほぼ同じ、ガイドブック²¹⁾は「稲村ガ崎・七里ヶ浜」の章で海が、途中下車の旅として扱われる「大船」大船観音寺、県立フラワーセンターが掲載されている。
- 注10) 観光ガイドブックではその撮影場所を説明するページが2, 1, 1/2, 1/12ページに分類される。「扱いが大きい」とは半ページ以上あるものを指す。
- 注11) 投稿数4以上の撮影場所82件に関する投稿数は1,333あり、この1,333の投稿について投稿者の偏りを調べた。最も投稿数の多い投稿者の投稿が192、1,333の14%を占める。50以上投稿した投稿者が4名で投稿の3割、10以上投稿した投稿者が27名で3分の2を占める。投稿者は166名で、投稿数3以下の投稿者が5割いる。一人あたりの平均投稿数は8となる。
- 注12) 閲覧者において、鎌倉市民は24.4%と2位を占めている。1位は東京都民で38.6%、3位が横浜市民で13.1%である（2013年9月基準）。
- 注13) 近年、風景の生成について研究がなされその成果がまとめられている。風景はある地域のまとまりを対象としており、ここで扱う場所とスケールにおいて異なるが、「かまくらさん」において投稿者がある「場所」のながめを発見し、それを投稿し、閲覧者がそれを共有するプロセスを論じるには有効な議論と考える。

本文で言及した文献に加えて、吉村（2011）²²⁾は、風景およびその体験に関する言説から取り出した3つのモデルとして、①近代の主体概念である「個人」が環境から構図を切り取り流通させるとする風景発見モデル（近代認識論、社会学）、②「視点」という存在様態になった主体が、テキストの解体構築を行う時間的過程として風景体験をとらえる風景解読モデル（テク

スト理論、記号論、ポスト構造主義）、③空間的時間的制限を持つ存在である「身」が、世界の出現を体験すると同時に、変身・変心した自己を見出す風景顕現モデル（現象学、禅的思想）、④風景体験される以前の状態の意義を指摘し、環境の無意識的な体験状態を環境の透明化・身体化としての風景沈潜モデル（認知科学、脳科学、現象学、美学）を提示した。多くの著述で語られるのは、個人と社会・集団現象に言及した「風景発見モデル」である。しかし、吉村は「この理論的で社会的な主体概念を用いる限りは集団-個人の対比の文脈で語ることとなり、集団に共有されたコードとしての風景の問題に還元されることとなることが確認され、（中略）風景がどのように『生きられた』かといった風景体験の現象的側面について議論ができない」としている。

注14) 吉村（2004）²³⁾は、風景生成研究の立場について、「風景とは、客観的物理的对象としての環境（存在）のことではなく、人間と環境との間に何らかの関係性が生じること（現象）であるとしてとらえるならば、発見的な認識が行われるような風景体験は、新たな価値が生成される動的な変化過程としてとらえることができる」と説明している。

THE FEATURES OF THE PLACES FOUND IN Facebook 'KAMAKURASAN'

Kyoko YAMAGA and Ilji CHEONG***

* Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Dr. Eng.

** Assistant Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Dr. Eng.

1. Introduction

In recent days, according to SNS's growth, local SNS's cases are increasing which are trying to use SNS community building or local revitalization through sending out local information. Facebook Page: 'Transmitting and Interchanging Local Information by Kamakurasan of 1192 people' is local SNS site which transmits Kamakura's attractions to everybody by 'Kamakurasan' who loves Kamakura through pictures and comments. Lots of landscape's pictures have been posted.

The aim of this paper is to comprehend the places and the features of cognition and description through observing posting pictures as spatial resources. And, we will review pictures' characters of local SNS through consideration of the process from posting to evaluation.

2. Brief of the Posting of 'Kamakurasan'

We only focus pictures which are possible to check its direction from Feb. 2013 to Jan. 2014. The pictures which were possible to check each direction were 1,668. We also use comments' text to comprehend filmed place and photographic subject.

3. Feature of Filmed Place

We considered types and location of filmed places (high order) and compared local SNS's pictures with tour guide book and 100's landscape view. The character of spatial resources which were posted by 'Kamakurasan' are as follows: 1) There are lots of views to shrines, temples and the nature. These view are representative spatial resources which were also posted at tour guide book and landscape view of Kamakura. 2) There exist stations and local parks as spatial resources. These are unique resources as 'Kamakurasan'. Station as waiting time of the train is also important place as cognition and description during usual day.

4. Feature of Photographic Subject

We considered the characters of photographic subject by reviewing number of posting per subject, subject which got lots evaluations from audiences, the relation between filmed place and subject, and comparing with tour guide book and landscape view.

1) We classified the relation between filmed place and subject as 4 types: type of flower and timber, type of nature and view, type of object, type of mix according to the cluster analysis. 2) We classified 'temporality' as the character of cognition and description of spatial resources. Lots of subjects which show transit of time or season, and subjects which were described beautifully got high rating from the visitors. Moreover, even in the case of fixed subject such as shrines and temples, they were attached with flowers or timber to describe the transit of the season or temporality.

5. Meaning of Filmed Picture

We also considered the process from posting to evaluation according to the discussion over 'generation of landscape'. Kioka(2007) indicated that the cognition of landscape is consisted with 3 layers of 'Basic Landscape', 'Original Landscape', 'Descriptive Landscape'. We related the process of 'Kamakurasan' to this constitution of landscape. As a result, the process of 'Kamakurasan' was revealed as strength of the fraction of an instant with weak community of spatial accessibility.

6. Conclusion

On this paper, we comprehended the filmed places and the subjects which were founded as 'Kamakura's good mark' through posted pictures of 'Kamakurasan' and executed the review of the feature of spatial resources. And, we also tried to consider the meaning of the filmed pictures as the 'generation of the place' based on the process from posting to evaluation.

The picture of local SNS is rich and varied spatial information, so it is considered that the review for using these pictures are very valid. Live perspective is also important on Machizukuri or urban planning with objective one.

(2014年9月10日原稿受理, 2015年1月16日採用決定)